

議事録

会議の名称	令和5年度第1回戸田市総合教育会議
開催日時	令和5年4月20日(木) 16時00分 ~ 17時10分
開催場所	戸田市役所 4階 公室
出席者氏名	市長 : 菅原文仁 教育長 : 戸ヶ崎 勤 委員 : 仙波 憲一 委員 : 木村 雅文 委員 : 長道 修 委員 : 浜田 美咲
出席職員	副市長 : 秋田 大輔 教育委員会事務局 部長 : 川和田 亨 参事 : 梶山 浩 教育政策室 室長 : 横田 洋和 担当課長 : 杉森 雅之 くらし安心課 課長 : 中山 正之 児童青少年課 課長 : 田村 利子 教育総務課 課長 : 金澤 哲
事務局	市長公室 室長 : 内山 敏哉 主幹 : 重信 雄太 主事 : 小柳 和歌子
欠席者氏名	なし
議題	(1) 学校の安全対策について (2) 戸田市未来の学び応援プロジェクトについて (3) その他
議事内容及び結果	各議題について担当より説明を行った後、委員と意見交換を行った。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
傍聴人	3人
議事録調製	小柳 和歌子

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>只今から、「令和5年度第1回戸田市総合教育会議」を開会いたします。</p> <p>はじめに、菅原市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
市長	<p>みなさん、こんにちは。戸田市長の菅原 文仁でございます。</p> <p>本日は、定例教育委員会が開催されるなど、ご多忙の中にもかかわらず貴重な時間を頂戴し、総合教育会議を開催させていただきますことに御礼申し上げます。</p> <p>短い時間ではございますが、有意義な会議としていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、本日の議題に入らせていただきます。会議の進行は菅原市長をお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、はじめに、議題(1)の「学校の安全対策について」でございます。</p> <p>本議題につきましては、3月20日に開催いたしました総合教育会議での意見交換を踏まえた安全対策をご説明させていただきます。前回の総合教育会議では、令和5年3月1日に戸田市立美笹中学校で発生した事件を機に学校の安全対策を改めて見直し、議論を交わしていただきました。それらを踏まえ、今後の具体的な対策をご説明できればと思います。</p> <p>また、「学校の安全対策」については、学校を取り巻く地域においても対策強化が必要であり、学校と地域が一体となって対策を講じることが、子どもたちの安全を守るために必要です。そこで、学校での対策と地域での対策について、それぞれ担当から説明させていただきます。</p> <p>まず、教育委員会より、学校現場からの要望を踏まえた安全対策についてご説明いたします。事件後、3月14日付で戸田市立小中学校長会より緊急要望が提出されました。その要望を踏まえ、市内小中学校において、警備員の配置や、ハード面およびソフト面の充実等の安全対策を講じることといたしました。それでは、教育総務課より本件についてご説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>それでは、資料1-1の1ページをご覧ください。3月14日付けの校長会からの要望を踏まえた安全対策についてご説明いたします。校長会からの要望書については、前回の総合教育会議で説明させていただいたものを参考資料で付けさせていただいております。</p>

	<p>す。</p> <p>今回の事件を受けて、美笹中学校において心的安全性を確保すべく、3月9日から緊急で警備員を配置しております。引き続き、4月以降においても継続的に警備員を配置しております。今後につきましては、市内全中学校に警備員を配置すべく、6月議会において補正予算の提案を検討しているところでございます。なお、小学校については、すでに全校に警備員を配置しています。</p> <p>ハード的な安全対策につきましては、現在、美笹中学校において、オートロック化の改修を、5月中を目途に完了するよう進めております。出入口のオートロック化につきましては、校長会から来校者入口や昇降口等のオートロック化等を要望されておりますが、出入りの多い昇降口を安全に運用し続けられるようにするにはどのような対策が適しているのかなど、慎重に検討する必要があります。つきましては、文科省ガイドラインにおける不審者侵入防止のための3段階の観点「校門、校門から入り口、入り口」を取り入れつつ、美笹中学校での取り組みをモデル校としながら、現場や関係者との議論を経て、適切な安全対策を全小中学校に展開していけるよう取り組んでまいります。</p> <p>防犯備品につきましては、現在、各学校には、緊急時に、やむを得ず侵入者と対峙しなければならない場合の防御アイテムとして、刺股やネットランチャーを配備しております。これに加えて、民間企業から透明防護盾の寄附の申し出があり、全小中学校にそれらの配備を予定しております。さらなる防犯備品については、児童生徒と教職員を守る防犯備品の充実について検討してまいりたいと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、市長部局より、学校を取り巻く地域での子どもの安全対策についてご説明いたします。</p> <p>まず、「こども110番の家」のさらなる活用について、対策をご提示いたします。従来からあります「こども110番の家」をさらに活用、拡充することで、子どもたちが安全に過ごせるまちづくりに取り組んでまいります。</p> <p>それでは、児童青少年課より本件についてご説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>資料1-1の2ページをご覧ください。</p> <p>学校を取り巻く地域でのこどもの安全対策について、市長部局の</p>

	<p>こども健やか部児童青少年課より、「子どもひなん所 110 番」の設置についてご説明させていただきます。</p> <p>「子どもひなん所 110 番」の設置の趣旨としましては、子どもたちを取り巻く社会の中で起こる事件を踏まえ、通学路での不審者からの被害を防ぎ、子どもたちが「駆け込みやすい場所」として、店舗や事業所に登録の協力をお願いするものです。従来の「こども 110 番の家」の取り組みを進化させる形で、市内全域でコンビニ・郵便局など地域に根差した店舗等へ働きかけ、設置者の拡大を目指し、目印の看板をかかげていただき、子どもたちがいつでも駆け込める場所を作ってまいります。</p> <p>次に、情報発信の強化としましては、「子どもひなん所 110 番」の設置協力者の目印となる看板の刷新と、ステッカーの作成により、地域の防犯意識を高め、「子どもひなん所 110 番」の MAP を作成することで広く市民に周知します。</p> <p>事業継続の体制強化としましては、民間団体・事業者等との連携を図りながら、市が主体となり、持続可能な事業へと発展させます。</p> <p>右側の「拡充のイメージ」の図ですが、従来の「こども 110 番の家」については、平成 10 年度より開始された制度で、中学校区ごとにある「地域の会」がそれぞれに店舗や個人の協力者を募るなどの活動をしておりました。昨今では「地域の会」の解散による活動縮小のほか、昼間不在の個人宅や、所在確認のできない家の問題もでてきております。</p> <p>新たな事業展開としての「子どもひなん所 110 番」では、駆け込みやすいコンビニや郵便局などへ、市が全面的に働きかけ、特に、店舗等については既加入店舗も含め、MAP にして広く周知を図るところを簡略化して示しております。</p> <p>最後に、資料の左下の令和 5 年度のスケジュールですが、6 月に規定の改正や必要経費の補正予算の計上を行い、7 月頃、従来の看板設置者の所在確認や継続意向の確認を実施します。その後 11 月にかけて新たな協力者への幅広い勧奨と、看板配布を実施し、事業所及び店舗について MAP を作成し、周知を行います。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>地域の安全対策といたしまして、現在、戸田市では様々な取組を行っております。中でも、防犯カメラの設置台数は、県内で最も多く、約 400 台でございます。他にも、防犯パトロールの実施や様々</p>

	<p>な媒体での情報発信など、子どもたちの安心安全を守るため、防犯対策を強化しております。</p> <p>本件については、くらし安心課よりご説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>くらし安心課より、お手元の資料 1 - 1 の 3 ページをもとに、「学校を取り巻く地域でのこどもの安全対策」について、「さらなる充実を図る戸田市の防犯対策」といたしまして、現在本市で実施している防犯対策について簡単にご説明させていただきたく存じます。</p> <p>まず、本市では、県内トップクラスの規模で、積極的に防犯対策を推進しておりますが、防犯対策の大きな柱といたしましては、「防犯カメラ」「パトロール」「情報発信」の 3 つが挙げられると考えております。この他にも、さまざまな防犯対策に取り組んでいるところでございますが、今回はこの 3 つの柱について順番にご説明いたします。</p> <p>まず、防犯カメラについては、市内には防犯カメラが約 400 台設置されている状況でございます。なお、こちらは、令和 3 年度から本格稼働し、主に通学路に設置されている見守り防犯カメラと、平成 29 年度から令和元年度までに各町会が設置した防犯カメラを合わせた数となります。設置率につきましては、市街化区域で算出しますと、1 キロ平方メートルあたり約 30 台設置されており、設置数及び設置率はともに県内トップとなっております。</p> <p>また、見守り防犯カメラの設置に伴い、適正な配置及び運用を図るため、平成 31 年に戸田市見守り防犯カメラの設置及び運用に関する条例を制定しておりますが、同条例の制定は県内初となっております。</p> <p>さらに、見守り防犯カメラには、ビーコン受信機が組み込まれ、児童が防犯カメラ付近を通過すると保護者に通知されるサービスを提供しており、子どもの見守り強化を図っているところでございます。本取り組みについても県内初となっております。</p> <p>次に、パトロールについてご説明いたします。パトロールにつきましては、現在警察官 OB や委託警備業者等により実施しており、平成 16 年度に青パトを導入しましたが、当時青パトの導入は県内初でありました。</p> <p>また、平成 21 年度より、青パトは日中のみならず、深夜時間帯を含めた夜間も運行しておりますが、これについても同様に当時県内初でした。</p> <p>なお、パトロールは、蕨警察署と連携し、毎日提供いただいでい</p>

	<p>る犯罪発生状況の資料等をもとに、犯罪情勢等に応じて実施しております。</p> <p>さらには、多くの町会が実施しているパトロール活動を支援しているほか、複数の事業者を自主防犯活動従事者として委嘱しており、地域とも連携しながらパトロール活動を強化しているところでございます。</p> <p>最後に、情報発信についてご説明いたします。情報発信につきましては、主にLINE、いいとだメール、ホームページを活用して実施しております。</p> <p>まず、LINEにつきましては、令和4年11月に市の公式アカウントがリニューアルされ、防犯情報の配信を開始しました。内容といたしましては、依然として多発傾向にある特殊詐欺の予兆電話に関する情報や犯罪・防犯情報等をタイムリーに配信しているところでございます。</p> <p>いいとだメールにつきましては、平成18年度に運用を開始した「とだピースガードメール」が平成30年度にいいとだメールへと切り替わっております。内容といたしましては、主に埼玉県警察が配信している犯罪情報官ニュースという犯罪・防犯情報等に関するメールマガジンを転送配信しております。</p> <p>ホームページにつきましては、令和4年度から大幅にリニューアルし、刑法犯認知件数、特殊詐欺、自転車盗、子供に対する声掛け事案等について、地区別に発生状況等を分析するなどした資料を公開しており、毎月更新しているところでございます。</p> <p>本市で実施している防犯対策についての説明は以上となります。</p> <p>なお、生徒及び保護者の安心感醸成や、防犯意識高揚等を目的といたしまして、本内容をわかりやすくまとめたチラシを現在作成しており、今後は全小中学校の生徒へ配布させていただく方向で検討しております。</p> <p>説明は以上となります。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、教育委員会より、本事件に係る国・有識者によるヒアリングについてご報告いたします。本事件を受け、令和5年3月30日に、文部科学省と戸田市教育委員会にて、当時の状況や対応方法及び今後の安全対策についての意見交換を実施しました。</p> <p>本件について、教育政策室よりご説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>それでは資料1 - 2について説明いたします。</p>

3月30日に、本事案の教訓を広く全国の学校園における安全対策の推進に活かすため、特に国や学校設置者としての今後の対応や必要な取組についての知見を得る機会とする目的で、美笹中学校において、文部科学省及び同省に設置されている「学校安全の推進に関する有識者会議」の有識者による現地ヒアリングが行われました。市教育委員会からは教育長、教育委員、事務局幹部の計6名が同席し、3.にある、当日の事件対応状況、保護者への説明、心のケアなどの事後対応、日常の備え、学校として実施してきた事前対策、事後対応で、奏功した点と課題を感じた点、学校設置者や国に求めること、事件後からこれまでの間の緊急的な取組を議題として学校から説明の後、意見交換が行われました。

なお、4.にあるとおり、機微な内容を含むものであったこと、管理職のみならず教諭も参加したこと等から、国からの要請も踏まえ、非公開で実施いたしました。

次ページをご覧ください。国や有識者の方々からは、生徒達や教職員の心のケアについての対応、校門で止めるということが中々難しい中で、コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、ソフト面で人の目を増やすといった方策の必要性、文科省ガイドラインにおける不審者侵入防止のための3段階の観点を踏まえて校舎に入れる場所を制限することの重要性、不審者対応における先生方の中での適切な役割分担などについてお話がありました。

また市教育委員会からは、先月の総合教育会議でも申し上げたこととして、ハード面では閉じていく、ソフト面では開いていくという大きな考え方が良いのではないかと考えていること、学校内に家庭・地域の方がいることが、抑止にもつながるため、学校安全というテーマで、コミュニティ・スクールでも協議していただいているかと考えていることを説明しました。

最後に、学校からは3点お話がありました。1点目として、不審者対応マニュアルの見直しを事件後に行ったが、マニュアルで様々な記載をしたとしても、例えば防犯カメラを常時教員がチェック出来る訳ではないなど、教員に出来ることには限界があると感じているということ。2点目として、不審者対応は教員の本来業務ではなく、誰か入ってくることを気にしないでいられることで、先生方が子供たちへの教育活動に専念できるため、そういったハード面での支援をお願いしたいということ。例えば、校舎に入る段階で、インターフォンやオートロックなどがあれば守られるのではないかとお話がありました。また、事件後に、市教育委員会の指導主事や

	<p>警察、さらには緊急配置された警備員が見守ってくれたことは有難く、こうした構造と人の手配の両方が重要だと考えているとのことでした。そして3点目として、学校を安全にするためのシステムと、被害者が相談できるシステムを整えていただきたいということについて、現場の率直な思いを伝えていただきました。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
市長	<p>議題（１）の説明は以上でございます。</p> <p>ただいま、説明のありました議題に関して、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思えます。</p>
委員	<p>オートロック化についてご説明いただきましたが、コストはどのくらいかかるのでしょうか。また、実際にオートロック化を実施している学校はありますか。</p>
出席職員	<p>今回、美笹中学校から要望があり、職員用玄関のオートロック化の修繕を先行して進めております。修繕の内容といたしましては、職員用玄関を電子錠にすること、モニター付きインターフォンに交換することです。費用は200万円余りとなります。</p> <p>また、戸田東小中学校について、職員用玄関のオートロック化が実施されております。</p> <p>以上でございます。</p>
委員	<p>美笹中学校に緊急配備した警備員はどのような警備を行っているのでしょうか。警備員が敷地内で不審者を発見して対峙した場合には、通報体制はどのようになっているのかということを確認させていただければと思えます。</p>
出席職員	<p>3月9日より設置、配備いたしました美笹中学校の警備員につきましては、1名配備しております。警備の内容としましては、正門で来校者の確認を行い、特に問題ないと判断すれば、職員玄関へ誘導していくという形になります。また、門の開閉作業についてもその都度行うということをお願いしております。</p> <p>警備業務の仕様において、携帯電話等を所持させており、不審者等を発見、対峙した場合については、校長等に速やかに通報することとしております。通報を受けた校長等は、職員室や事務室に設置してある緊急通報装置にて、110番指令センターに連絡する体制となっております。</p> <p>以上でございます。</p>
委員	<p>市内全小中学校の門扉や出入口をオートロック化するとのことですが、どこからどこまでをオートロック化するかは安全面と運用</p>

	<p>面を考えて実施すべきと考えます。美笹中学校は職員玄関にて実施するというお話でしたが、今後どの範囲で行うかという点は決まっているのでしょうか。</p>
出席職員	<p>昇降口も含めた校舎出入口のオートロック化については、授業や休み時間ごとにロックの解除を事務室で行うことが想定されます。その作業が毎日頻繁に行うことや、どの出入口を開け閉めすればよいのかを常に確認する必要があるなど、運用面で負担と混乱が生じるかと思えます。オートロックを設置して守りを固めても、運用の負担からヒューマンエラーが発生することが予見され、かえって危険を伴うことが考えられます。従って、オートロック化改修にあたっては、文科省ガイドラインにおける不審者侵入防止のための3段階の観点等を取り入れつつ、ハードとソフトを一体的に検討する中で、オートロック化の範囲を慎重に検討したいと思えます。</p> <p>以上でございます。</p>
委員	<p>3月30日の美笹中学校での国・有識者のヒアリングについて、被害に遭われた教員も同席されたのでしょうか。状況がどうなのか気になっているため、可能な範囲で教えていただきたいです。また、美笹中では、早速、不審者対応マニュアルを見直したとのことですが、他の学校での見直しの状況についても教えていただければと思います。</p>
出席職員	<p>ヒアリングについて、詳細については申し上げられませんが、被害に遭った教員や、他の当日対応した教員が複数同席した上で、当日の状況を確認しております。被害教員については、全く軽傷ではなく、「ギリギリのところで一命を取り留めた」という状況であると認識しております。</p> <p>マニュアルについては、文科省ガイドラインの3つの段階を踏まえ、主に学校への不審者侵入の防止対策を「校門」「校門から校舎入り口」「校舎入り口」の3段階に分けて明記すること等の見直しを全校で行っています。</p> <p>以上でございます。</p>
教育長	<p>前回の総合教育会議や3月30日の文科省及び学校安全の推進に関する有識者会議の方々によるヒアリング時にも私から大きく2点申し上げました。</p> <p>一つ目は、学校を閉じる「学校安全対策」と学校を開く「開かれた学校」の両立は、ハードとソフトの両面で分けて考えていく必要があるということです。ハード面では、3段階の防犯対策を可能な</p>

	<p>限り強化し、不審者が簡単には入れない安心・安全な施設とすること。ソフト面では、保護者や地域の方などに積極的に学校に入っただき多くの大人の目で子供を守るため、地域や社会に開かれた学校をこれまで以上に推進していく必要がある、ということです。</p> <p>二つ目は、先日市内校長会から、学校運営協議会で、学校の防犯体制というテーマで、地域に何ができるか、「地域の子供は地域で守る」を合言葉に協議いただくと伺っています。大変ありがたく感じています。今後は美笹中を学校安全のモデルとして、産官学の知見をいただき学校安全対策を講じていきたいと考えております。</p> <p>本日は、こども健やか部や市民生活部からも、子供や市民の見守りの取組を発表してもらい、大変心強く感じました。今後も子供の見守りについては、「チーム戸田」として、教育委員会はもちろん、市役所一丸で強固な体制づくりができるようお願いしたいと思います。</p>
市長	<p>本事件が起きてからの短期間で、教育委員会も市長部局も、予算化に向けた検討にかなりピッチをあげてまとめていただきました。関係者の皆様には御礼を申し上げます。議会にもご説明をしながら、ここからがスタートという形で、子どもたちの安全対策を進めてまいります。さらに、今後、運用面での課題も出てくると思いますが、皆で一丸となり乗り越えていきたいと思っております。世間でも、本事件を機に学校の安全を何とか守りたいと考えている方もいらして、民間企業からは防犯備品贈呈の申し出があったと伺っておりますので、社会全体で安全対策を進めていきたいと思っております。</p> <p>それでは、このような形で6月に向けて進めてまいります。</p> <p>以上で、議題（1）を閉じさせていただきます。</p> <p>続きまして、議題（2）の「戸田市未来の学び応援プロジェクトについて」でございます。</p> <p>本市では、令和4年10月から令和5年3月まで、「戸田市未来の学び応援プロジェクト」として、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施いたしました。本プロジェクトは、いただいた寄附金を活用し教育改革を行うもので、著名人の方々から応援のメッセージをいただくなど、大変多くの方に注目していただいた取り組みでございます。皆様からいただきました寄附の用途や今後のスケジュールなどについて、教育政策室よりご説明いたします。よろしく願いいたします。</p>

出席職員

それでは、資料2に沿って、戸田市未来の学び応援プロジェクトについて報告いたします。

2ページをご覧ください。昨年9月の総合教育会議でお示した、「未来の学びの実現に向けた、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング」については、令和4年10月から令和5年3月まで実施いたしました。学校から、本市が推進するPBLや部活動の地域移行、デジタル技術の活用、自然体験活動やインクルーシブ教育の推進、教職員の対話や意識改革といった夢のある学校改革の提案があり、それらについて教育委員会として寄附を広く募りました。

その結果、3ページにありますとおり、お陰様で総額500万円のご寄附をいただきました。令和2年度にクラウドファンディングを実施した際は約88万円であったため、それと比較して今回は一定の成果が挙げられたと捉えております。

4ページにありますとおり、とだPR大使、サッカーのマンチェスターシティ所属の長谷川選手やFC岐阜所属の宇賀神選手の他、イェール大学の成田先生や慶應義塾大学の中室先生、メディアアーティストの落合先生や認定NPO法人カタリバの今村様など、著名な方々からも応援メッセージを頂戴しており、広く本プロジェクトにご注目いただいたと認識しております。

今後のスケジュールについては、5ページをご覧ください。こちらから昨年9月の総合教育会議でお示したものですが、こちらに則って着実に進めており、現在は各提案への配分額を教育委員会として決定し、各提案の事業化に向けた予算要求の段階に入っております。

ここで、各提案に対する配当についてご説明します。6ページは各プロジェクトの内容及び特定のプロジェクトを指定して寄附をいただいた額になります。

指定のない寄附については7ページのとおり、先月、教育政策シンクタンクの外部アドバイザーによる審査を行い、各提案への配分金額の傾斜を決定しました。評価の基準は資料にあるとおりとなり、この結果、各プロジェクトについて約30万円から70万円程度の補助を教育委員会として見込んでおります。

8ページは今後のスケジュールです。すぐに事業実施が可能なものについては、6月議会にて基金を取り崩し、令和4年度の提案について補助金として各プロジェクトに配当し、提案内容に基づいた事業を進めてまいります。

また、今ご説明いたしました内容は令和4年度の提案に係る事業

	<p>になりますので、令和5年度の提案については今後募集を開始してまいります。昨年度と同様、10月から令和5年度のクラウドファンディングを開始する予定です。なお、いわゆる一般寄附についてはクラウドファンディングに関わらず、通年で寄附を受け付けております。</p> <p>また、令和4年度提案事業の進捗状況については、ホームページや教育委員会のnoteなどを活用して、報告をしてまいります。</p> <p>市教育委員会といたしましては、とだっ子が、一人ひとりの個性を生かし、多様な人々と協力して誰もが安心して暮らせる社会を創る担い手となるために、教育委員会が「プロフィット・センター」となり、夢のある学校改革を一層後押しすることで、学校現場の積極的な自走を支援してまいりたいと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
市長	<p>議題(2)の説明は以上でございます。</p> <p>ただいま、説明のありました議題に関して、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>本プロジェクトの配分について、学校間の競争を増やすという趣旨は大変良いと思います。ただ、実際にプロジェクトを実施する際に、金額があまりにも少ないところもあれば、少し多いところもあるので、配分するプロジェクトを絞って行うような競争型の配分も良いのではないかと考えました。なぜ金額が少なかったか学校へ説明し、来年度に向けさらに頑張ってもらおうという形も良いと思います。</p>
出席職員	<p>配分の件につきまして、おっしゃっていただいたような案も検討に上がっていたのですが、何点か理由があり、今の形にしております。</p> <p>まず1点目としては、寄附者の思いということがございます。資料の6ページ目に記載のとおり、今回は11のプロジェクトがあり、どれに対しても、「このプロジェクトを特に支援したい」と指定して寄附をした方がいらっしゃいます。ご提案のような方法ですと、実施しないプロジェクトができてしまい、寄附者の思いとは反してしまうという問題がございます。</p> <p>また2点目として、学校現場の心情という問題があります。校長先生に主体的に提案をしていただいたけれども今年度は実施しませんでした場合、学校現場のモチベーションを保つことがなかなか難しいと思っております。また、その年度で異動してしまう方も</p>

	<p>いらっしゃるため、また来年に応募してください、来年に実施します、ということが厳しい場合もございます。その結果、次回、手を挙げてくださる学校の数がかなり減ってしまうのではないかと考えております。今回は500万円という大規模な額が集まり、少ないところでも約30万円から、多いところだと70万円弱の金額が配分できる見込みでございます。事業ごとに必要な額は異なりますが、学年を絞ったり、一部縮小したりすることで、どの事業も実施可能であると伺っておりますので、今回はご説明した方法で取り組んでみようと考えております。</p> <p>いずれにしても、我々としては、学校での積極的な自走を支援したいという思いがあり、せっかく意欲を持って手を挙げてくださった学校がお金をもらえないという方法は少し厳しいと感じ、このように実施しているところです。</p> <p>以上になります。</p>
委員	<p>指定寄附があってこの金額になっているということが分かりました。是非皆さんが応募してよかったと思えるように配慮していただければと思います。</p>
委員	<p>今お話しがありました6ページの指定寄附について、内容が教育面、生活面など多岐に渡っているかと思えます。今までコロナ禍で子どもたちも鬱々としていて可哀想な状況だったので、子どもたちが少しでも元気に暮らせるように使っていただきたいと思えます。</p> <p>そして、今後、活用した結果や子どもたちの様子について、ご報告をいただければありがたいと思えますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>6ページの、中学校の陸上部に関する提案についてですが、やはり部活動の地域移行は非常に難しい状況にあると思えます。このクラウドファンディングで集まったお金で、準備や運営、指導者の確保を行うのは非常に厳しいチャレンジになると思えますが、期待をしております。このプロジェクトが上手くいけば、全ての部活動につながると思えますので是非進めていただきたいと思えます。</p>
委員	<p>本プロジェクトとは直接関係ありませんが、戸田の未来の学びへの応援についてお話をしたいと思います。戸田市はボートのまちとして知られているので、ボートを通じて子どもたちに夢を持ってもらいたいと考えています。以前、JFAの夢の教室というプロジェクトに参加したことがあります。これは小学校5年生に、様々な分野で活躍した人たちが授業をするというものです。前半はゲームなどで</p>

	<p>協力することの大切さを学び、後半は著名な選手などが夢をかなえるまでの苦労や努力を語ります。私はこのような内容をポートに関連づけて、戸田市でも実施できないかと思っています。戸田市にはオリンピックがたくさんおり、聖火リレー記念イベントでお話した時には参加したいという人も多かったです。ポートに乗ることは難しいですが、エルゴメーターという機械で漕ぐ体験や、オリンピックとの対話を通して、ポートのまち戸田の魅力や子どもたちの夢の支援を広げていきたいと思っています。</p>
市長	<p>オリンピックの方々にイベント等で協力していただく件ですが、是非前向きに検討していきましょう。</p>
教育長	<p>各界の著名な方から「各校の夢ある提案を応援したい」との温かい御支援をいただいたことに感謝する反面、期待以上の取り組みを各校が実現させるための責任も感じています。私は以前から、教育委員会が「コントロール・センター」から「プロフィット・センター」にその役割をバージョンアップし、各学校の「自走」を支援していくべきと思っています。先日の校長会議では、「学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間にしてほしい」ということをお願いしました。そのためにも、このたびのクラウドファンディングにより実施される教育活動が、教師自身がワクワクすること、そして、そのワクワクが子供たちにも伝播し、「問いを見つけ考えること」、「いろいろな価値観をもった他者と対話すること」等の活動の中から、正に子供たちが未来を感じられることを願っています。</p> <p>今年度においても提案を募集する予定ですので、本市がファーストペンギンとして挑戦している施策の1つとして、引き続き注目していただけますと幸いです。</p>
市長	<p>集まった基金がこの後配分されますが、企画された先生が異動されたり、学校の運営において課題が生じたりすることもあると思います。せっかく打ち出していただいたプロジェクトを確実に進めるため、必要に応じて方向転換等を行いながら、運営に関してはフォローを行っていただければと思います。必要な応援はしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上で、議題（2）を閉じさせていただきます。</p> <p>最後に、議題（3）「その他」として、委員及び事務局の皆様から他に何かございますか。</p>
	<p>特になしの声</p>

市長

ないようでしたら、私から今後の検討課題について一つ提起をしたいと思います。

一昨日開催した戸田市 DX 推進本部会議で、戸田市として自然言語型の人工知能チャットボット「ChatGPT」について、調査研究事業を立ち上げることにしました。

「ChatGPT」は、これまでの常識を覆す革新的な文章生成能力により、あらゆる分野での活用が期待されております。私も実際に利用しておりますが、AI のもつ計り知れない可能性を感じています。ただ、その反面、今後、社会で活用された場合の負の側面や、経済への影響がどうなっていくのか、行政に活用した場合のリスクなどを見極められずしております。

政府は有効活用に向けて検討をはじめておりますが、私は、市民サービスを直接担う地方自治体こそが、早急にその活用とリスクを検討しなければならないと考えております。

そこで戸田市では、国の方針を待つのではなく、業務の自動化・効率化が可能な領域を洗い出すとともに、リスク・危険性を把握し、安全に利用する方法を検証することといたしました。デジタル戦略室が事務局となり、全庁的な調査研究チームを発足し、外部の方にアドバイザーとして就任していただき、質の高い調査研究を行います。そして、成果物として「ChatGPT」の活用ガイドの作成と公表を、速やかに進めていきたいと考えております。このチームには教育委員会からも参加していただいております。是非お力添えをいただければと思います。

また、この検討チームとはまた別の観点になると思いますが、学校現場においてもその活用やリスクについて、ぜひ検討していただければと思っています。

デジタルカメラやスマートフォンが現れたことによって、私たちの生活や社会は変革を余儀なくされ、今となっては後戻りできなくなりました。「ChatGPT」をはじめとする AI の出現は、これらに匹敵するような技術的な可能性を秘めておりますし、負の部分も出てくると思います。先生方の教育の在り方自体が問われてくると思われまます。

ぜひ教育委員会には、積極的にこの課題に立ち向かってもらいたいと思います。

そこで、今後どのように教育に取り入れていくのか、またリスクをどう考えていくのかを教えてください。

教育長	本市の誇りの1つではありますが、既に自走が始まっているところであり、「ChatGPT」を使用している校長が多いという状況です。さらに、今ご出席されている教育委員の皆様も全員が使用されています。
委員	「ChatGPT」について問われるのは、いかに使う能力を身につけるのかという点だと思います。使う能力をこれから育てていくことが、教育に課された仕事なのだと感じております。実際に使用してみると非常に簡単でしたので、是非上手く活用していきたいと思いました。
出席職員	現在、文科省から、「ChatGPT」についてヒアリングをさせてほしいというお話も来ており検討しているところです。国の動向と市としての考えがまとまった段階で、またお示しできればと思います。よろしくお願いいたします。
市長	では本日予定されておりました議題は全て終了しました。委員の皆様、本日はありがとうございました。
事務局	以上を持ちまして、総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人は次に署名する。

令和5年 5 月 11 日

菅原文仁

戸ヶ崎 勲

仙波 憲一

木村 雅文

長道 修

浜田 美咲